

## 歯周治療の基本技術・プログラム

(15単位:1単位60分)

研 修 項 目			研 修 内 容	単 位	演 習		
I	初診時に必要な知識と技術	A 初診時に必要な知識と技術	歯周治療の基本的な流れと進め方	4			
			歯周病とは(分類、特徴、多様性と再発の危険性等)				
			全身疾患と歯周病				
			患者の基本情報(現病歴、既往歴、服薬、生活習慣、口腔機能等)				
II	歯周組織検査の知識と技術	B 口腔検査の知識と技術	歯周組織検査の知識と技術	5	○		
			唾液検査の知識と技術		○		
			口腔内写真の撮影方法		○		
			レントゲン写真の読影法		○		
III	歯周基本治療に必要な知識と技術	C モチベーション(動機づけ)に必要な知識と技術	プラークコントロールの考え方	5	○		
			原因、病状の説明に必要な知識(組織学、病理学、細菌学等)				
			カウンセリングの知識と技術			○	
			禁煙指導について			○	
			食生活の改善指導について			○	
			歯周病の管理(管理計画書の作成、修正、評価)			○	
		D SRPに必要な知識と技術	手用スクレーターのインストルメンテーション	8	○		
			超音波スクレーラー(エアースクレーラーを含む)のインストルメンテーション		○		
			シャープニング		○		
			プロフェッショナルケア(歯肉縁上・縁下のプラークコントロール-PTC・PMTC-)		○		
		E 歯周治療の補助に必要な知識と技術	歯周外科治療の知識	歯周外科治療の知識	4		
							歯周病患者の補綴の知識(咬合、審美、インプラント治療を含む)
							根分岐部病変への対応
							高齢者と有病者の歯周治療
在宅療養と歯周治療							
IV	SPT・メインテナンスに必要な知識と技術	F SPT・メインテナンスに必要な知識と技術	SPT・メインテナンスの実際	4	○		
			再評価				
			知覚過敏・根面カリエスの予防				
			症例検討・報告				
合計				30			

## 摂食・嚥下機能療法の基本技術・プログラム

(15単位：1単位60分)

研修項目		内容	単位	演習
I	総論	(1) 摂食・嚥下障害とは	1	
		(2) 摂食・嚥下リハビリテーションとは		
		(3) 歯科衛生士の行うリハビリテーション領域(関連法規を含む)		
		(4) チームアプローチによる歯科の役割		
II	摂食・嚥下等の基礎知識	(1) 口から食べることの意義	2	
		(2) 摂食・嚥下器官の解剖		
		・口腔、鼻腔、咽頭、喉頭、食道の構造		
		・摂食・嚥下に関する筋		
		(3) 摂食・嚥下機能の生理		
		・口腔機能と摂食・嚥下の関わり		
・摂食・嚥下の流れ(5期モデル)				
III	摂食・嚥下機能の発達、加齢変化	(1) 発達期における摂食・嚥下機能 (発達)	1	
		(2) 成人・高齢期における摂食・嚥下機能 (減退)		
IV	摂食・嚥下障害	(1) 摂食・嚥下障害	1	
		・小児		
		・中途障害者		
		・高齢者		
V	摂食・嚥下の観察・評価	(1) 情報収集とアセスメント	4	○
		(2) 摂食時の観察		
		(3) スクリーニングテスト		
		・反復唾液嚥下テスト(RSST)		
		・改訂水飲みテスト(MWT)		
		・フードテスト(FT)、など		
		(4) 機器を使用した検査と評価		
		・嚥下造影(VF)		
		・嚥下内視鏡検査(VE)		
		・その他の検査(超音波エコー、頸部聴診法、筋電図検査)		
(5) 指導計画				
VI	摂食・嚥下障害に対する訓練法	A 間接訓練(基礎訓練)	4	○
		(1) 間接訓練(基礎訓練)とは(リスク含む)		
		(2) 間接訓練(基礎訓練)技法と効果		
		・口腔周囲の訓練(頬、口唇、舌、唾液腺刺激、バンゲード等)		
		・嚥下訓練(息こらえ、頭部挙上、アイスマッサージ、メンデルソーン、バンゲード、など)		
		・その他の間接訓練(基礎訓練)		
		(3) 呼吸訓練		
		・呼吸の評価と訓練の実際		
		・排痰法		
		B 直接訓練		
		(1) 直接訓練とは(リスク含む)		
		(2) 直接訓練技法と効果		
		・訓練食の選択		
		・固形食摂取訓練		
・液体摂取訓練				
・その他の直接訓練				
3	○			

研修項目		内容	単位	演習
VII	摂食・嚥下障害とリスク管理	(1) 緊急時対応・リスク管理	4	
		・口腔清掃時		
		・口腔機能訓練時		
		・誤嚥性肺炎への対応		
		・窒息、排痰への対応		
		・低栄養、脱水への対応		
		(2) 吸引法の理解と実際		
		(3) 各種非経口摂取の理解とリスク管理 (経静脈栄養、経鼻経管栄養、胃ろう(PEG)、など)		
		(4) 人工呼吸器の理解と装着患者のリスク管理		
		(5) 気管切開(カニューレを含む)の理解と装着患者のリスク管理		
(6) 全身管理				
VIII	摂食・嚥下障害と栄養	(1) 栄養素と栄養量の重要性	3	○
		(2) 栄養スクリーニングとアセスメント		
		(3) 障害者・高齢者の栄養指導		
		(4) 経管栄養		
		(5) 食形態		
		(6) 各種嚥下調整食の試食		
IX	栄養管理におけるチームアプローチ	(1) 栄養サポートチーム(NST)	2	
		・栄養サポートチーム(NST)とは		
		・低栄養改善の取り組み		
		・NSTにおける歯科の関わり		
X	摂食・嚥下障害者の口腔ケア	(1) 専門的口腔ケア導入のためのコミュニケーショントレーニング	4	○
		(2) 専門的口腔ケアの基本技術		
		(3) 口腔ケアの実践		
		・居宅における口腔ケア		
		・施設における口腔ケア		
		・病院における口腔ケア		
		・多職種連携によるチームアプローチ		
XI	訪問指導時における感染予防対策	(1) 高齢者に多い感染症の知識と予防法	1	
		(2) 使用器材の滅菌・消毒法		
		(3) 感染性廃棄物の処理法		
合計			30	

※ Xの項目は体験・見学・ボランティアを含む

別表2

## 関 連 学 会

No.	学 会 名	No.	学 会 名
1	日本歯科衛生学会	31	日本顎口腔機能学会
2	日本歯科医学会総会	32	日本歯科東洋医学会
3	歯科基礎医学会	33	日本顎変形症学会
4	日本歯科保存学会	34	日本スポーツ歯科医学会
5	日本補綴歯科学会	35	日本顎顔面補綴学会
6	日本口腔外科学会	36	日本顎咬合学会
7	日本矯正歯科学会	37	日本磁気歯科学会
8	日本口腔衛生学会	38	日本小児口腔外科学会
9	日本歯科理工学会	39	日本顎顔面インプラント学会
10	日本歯科放射線学会	40	日本咀嚼学会
11	日本小児歯科学会	41	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
12	日本歯周病学会	42	日本歯科技工学会
13	日本歯科麻酔学会	43	日本看護学会
14	日本歯科医史学会	44	日本介護福祉学会
15	日本歯科医療管理学会	45	日本保健医療行動科学会
16	日本歯科薬物療法学会	46	日本健康教育学会
17	日本障害者歯科学会	47	日本公衆衛生学会
18	日本老年歯科医学会	48	日本栄養・食糧学会
19	日本歯科医学教育学会	49	日本ケアマネジメント学会
20	日本口腔インプラント学会	50	日本産業衛生学会
21	日本顎関節学会	51	日本衛生学会
22	日本臨床口腔病理学会	52	日本歯科人間ドッグ学会
23	日本接着歯学会	53	日本糖尿病学会
24	日本レーザー歯学会	54	日本動脈硬化学会
25	日本口腔感染症学会	55	日本高血圧学会
26	日本有病者歯科医療学会	56	日本痛風・核酸代謝学会
27	日本歯科心身医学会	57	日本肥満学会
28	日本臨床歯周病学会	58	日本人間ドッグ学会
29	日本歯内療法学会	59	
30	日本歯科審美学会	60	

※ 日本歯科医学会 専門分科会・認定分科会を含む

別表3

## 指定教育機関

種 別	教 育 機 関 名
4年制大学	埼玉県立大学 保健医療福祉学部健康開発学科
	東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
	新潟大学歯学部口腔生命福祉学科
	広島大学歯学部口腔保健学科
	徳島大学歯学部口腔保健学科
	千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科
	九州歯科大学口腔保健学科
	九州看護福祉大学口腔保健学科
大 学 院	北海道大学大学院歯学研究科
	東北大学大学院歯学研究科
	筑波大学大学院
	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
	新潟大学大学院医歯学総合研究科・口腔生命福祉学科
	大阪大学大学院歯学研究科
	岡山大学大学院医歯学総合研究科
	広島大学大学院医歯薬学総合研究科
	広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔健康科学科
	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
専 攻 科	日本歯科大学東京短期大学専攻科歯科衛生学専攻
	日本歯科大学新潟短期大学専攻科歯科衛生学専攻
	日本歯科大学新潟短期大学専攻科学位取得コース
	日本歯科大学新潟短期大学専攻科臨床研修コース
	明倫短期大学歯科衛生士学科専攻科口腔保健衛生学専攻
	愛知学院大学短期大学部専攻科口腔保健専攻
	福岡医療短期大学専攻科口腔保健衛生学専攻
病 院 等 の 臨床研修課程	大阪大学歯学部附属病院専攻歯科衛生士コース
	大阪大学歯学部附属病院研修歯科衛生士コース
	広島大学病院臨床教育研修センター歯科衛生士研修課程

※ 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校前専攻科等の臨床研修課程修了者を含む

別表 4-1

**認定研修・認定分野 A**  
**生活習慣病予防（特定保健指導）プログラム**

(1単位 60分、32単位)

	研修項目	研修内容	単位
I	健康づくり施策概論	1 社会環境の変化と健康課題 2 健康づくり施策 3 生活習慣病とその予防	3.0
II	生活指導およびメンタルヘルスケア	1 生活指導と健康に影響する生活環境要因 2 個人の健康課題への対処行動(保健行動) 3 ストレスとその関連疾患及びストレスの気づきへの援助 4 個別・集団の接近技法 5 ライフステージ、健康レベル別健康課題と生活指導	10.5
III	栄養指導	1 栄養・食生活の基礎知識及び今日的課題と対策 2 食行動の変容と栄養教育 3 ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育	6.0
IV	健康教育	1 健康教育の理念と方法 2 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法 3 メタボリックシンドロームに対する健康教育 4 禁煙支援プログラムの基礎と実践	6.0
V	運動の基礎科学	運動と健康のかかわり	1.5
VI	メタボリックシンドロームと生活習慣病	1 メタボリックシンドロームと生活習慣病 2 メタボリックシンドロームと口腔保健	1.5
VII	特定健診・特定保健指導	特定健診・特定保健指導における食生活改善指導担当者の役割	0.5
VIII	研究討議	意見交換(メタボリックシンドローム関連)、グループワーク	3.0

認定研修・認定分野A  
在宅療養指導（口腔機能管理）プログラム

(1単位 60分、38単位)

	研修項目	研修内容	単位	演習
I	ガイダンス	認定歯科衛生士制度と目的	0.5	
II	長寿医療制度の概要	1 急速な高齢化と社会の変化 2 長寿医療制度の考え方 3 長寿医療制度と介護保険制度	1.5	
III	栄養管理	1 栄養評価と管理 2 代替(補助)栄養法の種類と選択 3 機能別食形態	1.5	
IV	病態別摂食・嚥下障害 (小児の摂食・嚥下障害)	1 正常発達 2 障害児の特徴(各種障害について、心理など) 3 障害児(乳幼児を含む)の摂食・嚥下障害 4 障害児に対する歯科的対応	3.0	
V	病態別摂食・嚥下障害 (中途障害の摂食・嚥下障害)	1 脳血管障害による摂食・嚥下障害 2 高次脳機能障害による摂食・嚥下障害 3 神経、筋系疾患による摂食・嚥下障害 4 頭頸部外科手術による摂食・嚥下障害 5 中途障害に対する歯科的対応(PAP、PLPを含む)	6.0	
VI	高齢者の特性と健康状態の把握	1 高齢者の身体および精神面の特性 2 健康状態の把握(生理的機能、基礎疾患、服薬状況等) 3 認知症、進行性の病気の理解、対応	2.5	
VII	リスクマネジメント 全身管理 呼吸管理	1 モニタリング評価 2 気道管理(気管カニューレ等)と外科的処置 3 誤嚥・窒息 4 吸引に関する知識 5 フィジカルアセスメント 6 緊急時の対応 7 吸引法 8 呼吸理学療法 9 その他	9.5	○ ○ ○ ○ ○
VIII	在宅での取り組み 在宅療養への配慮	1 療養環境の把握 2 多職種連携 3 退院時共同指導 4 家族介護者への援助 5 自己決定への支援 6 緩和ケア、終末期への対応	3.0	

	研修項目	研修内容	単位	演習
IX	心理学、カウンセリング	1 在宅療養者を対象とした援助技術 2 家族介護者を対象とした援助技術	1.5	
X	在宅療養における 口腔機能の評価と管理	1 計画立案の考え方 2 在宅療養における口腔機能管理の考え方(誤嚥性肺炎、低栄養、摂食・嚥下障害、生活の質への対応) 3 在宅療養者の口腔機能評価について 4 在宅療養者の口腔機能管理について 5 口腔機能評価・管理表の活用 6 咬合支持と咀嚼機能について 7 プランニングとアセスメント	6.0	○
XI	症例展開	歯科衛生士が行う在宅療養指導の実際	3.0	○

認定研修・認定分野A  
摂食・嚥下リハビリテーションプログラム

(1単位 60分、38.5単位)

	研修項目	研修内容	単位	演習
I	ガイダンス	認定歯科衛生士制度と目的	0.5	
II	リハビリテーション総論	1 リハビリテーション医学とは 2 運動理論 3 リハビリテーション連携	1.5	
III	栄養管理	1 栄養評価と管理 2 代替(補助)栄養法の種類と選択 3 機能別食形態	1.5	
IV	病態別摂食・嚥下障害 (小児の摂食・嚥下障害)	1 正常発達 2 障害児の特徴(各種障害について、心理など) 3 障害児(乳幼児を含む)の摂食・嚥下障害 4 障害児に対する歯科的対応	3.0	
V	病態別摂食・嚥下障害 (中途障害の摂食・嚥下障害)	1 脳血管障害による摂食・嚥下障害 2 高次脳機能障害による摂食・嚥下障害 3 神経、筋系疾患による摂食・嚥下障害 4 頭頸部外科手術による摂食・嚥下障害 5 中途障害に対する歯科的対応(PAP、PLPを含む)	6.0	
VI	摂食・嚥下の評価	1 フィジカルアセスメント 2 スクリーニング手法 3 頸部聴診法 4 嚥下造影とビデオ嚥下内視鏡(読影の基本など) 5 摂食時の評価(評価項目や評価のポイントなど)	3.0	○ ○ ○
VII	リスクマネージメント 全身管理 呼吸管理	1 モニタリング評価 2 気道管理(気管カニューレ等)と外科的処置 3 誤嚥・窒息 4 吸引に関する知識 5 フィジカルアセスメント 6 緊急時の対応 7 吸引法 8 呼吸理学療法 9 その他	9.5	○ ○ ○ ○ ○

	研修項目	研修内容	単位	演習
VIII	摂食・嚥下訓練	1 各病態に対する訓練法とその選択 (間接・直接訓練) 2 摂食時の指導と訓練計画立案	4.5	○ ○
IX	歯科衛生士が行う口腔 管理	1 情報収集 2 アセスメント 3 歯科衛生診断 4 計画立案 5 実施 6 評価	6.0	○ ○ ○ ○ ○ ○
X	症例展開	歯科衛生士が行う摂食・嚥下リハビリテーションの 実際	3.0	○

## 別表5

## 国 際 学 会 等

No.	学 会 名 ( 略 称 )
1	International Federation of Dental Hygienists (IFDH) 国際歯科衛生士連盟
2	International Association for Dental Research(IADR) 国際歯科研究学会議
3	American academy of Periodontology(AAP) アメリカ歯周病学会
4	International Association for Disability and Oral Health(IADH) 国際障害者歯科学会
5	Dysphagia Research Society(DRS)
6	World Congress of Gerontology and Geriatrics (WCGG) 国際老年学会
7	Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (AORCGG) アジア・オセアニア国際老年学会議